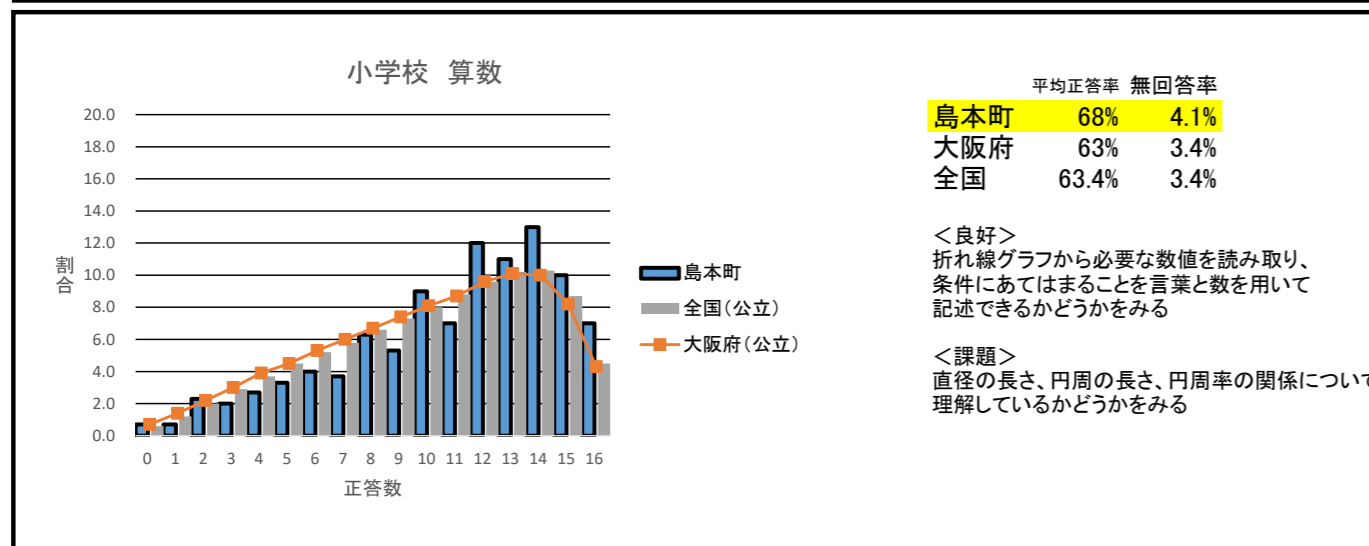
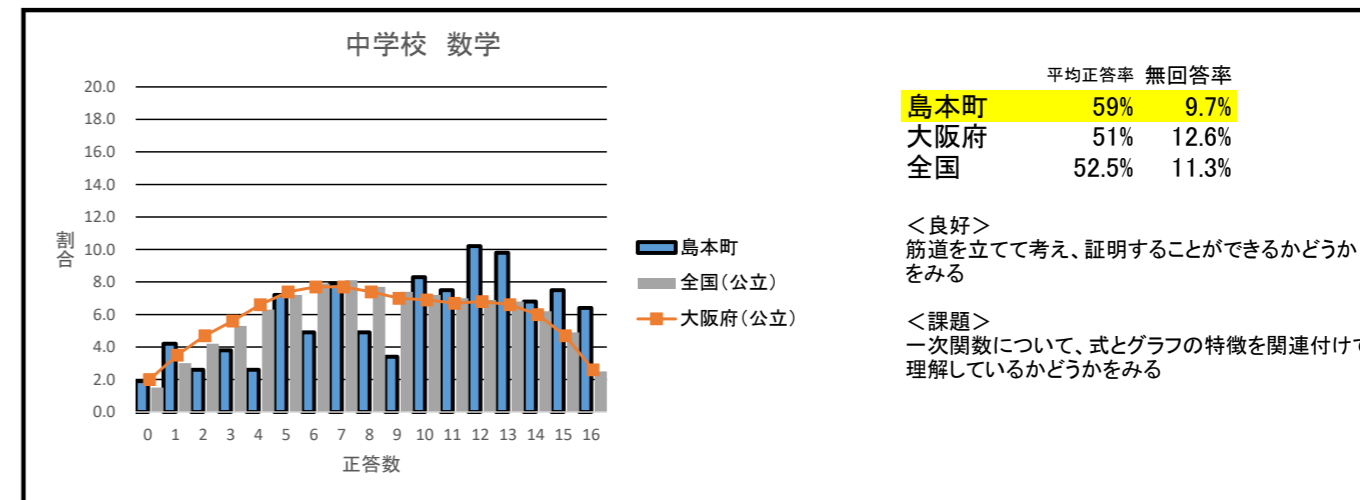
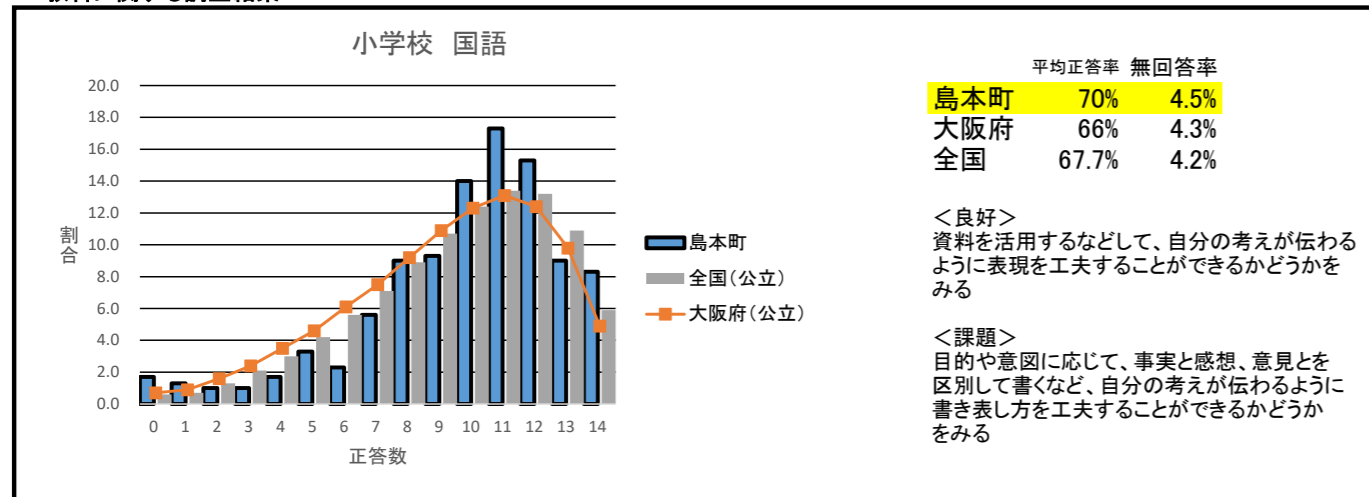


令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

実施日時: 令和6年4月18日(木)
対象・内容: 小学校第6学年(国語、算数、児童質問紙)、中学校第3学年(国語、数学、生徒質問紙)

実施校数: 小学校4校(全国18, 673校)、中学校2校(全国9, 603校)
実施児童・生徒数: 児童数301人(全国960, 389人)、生徒数265人(全国904, 048人)

1. 教科に関する調査結果

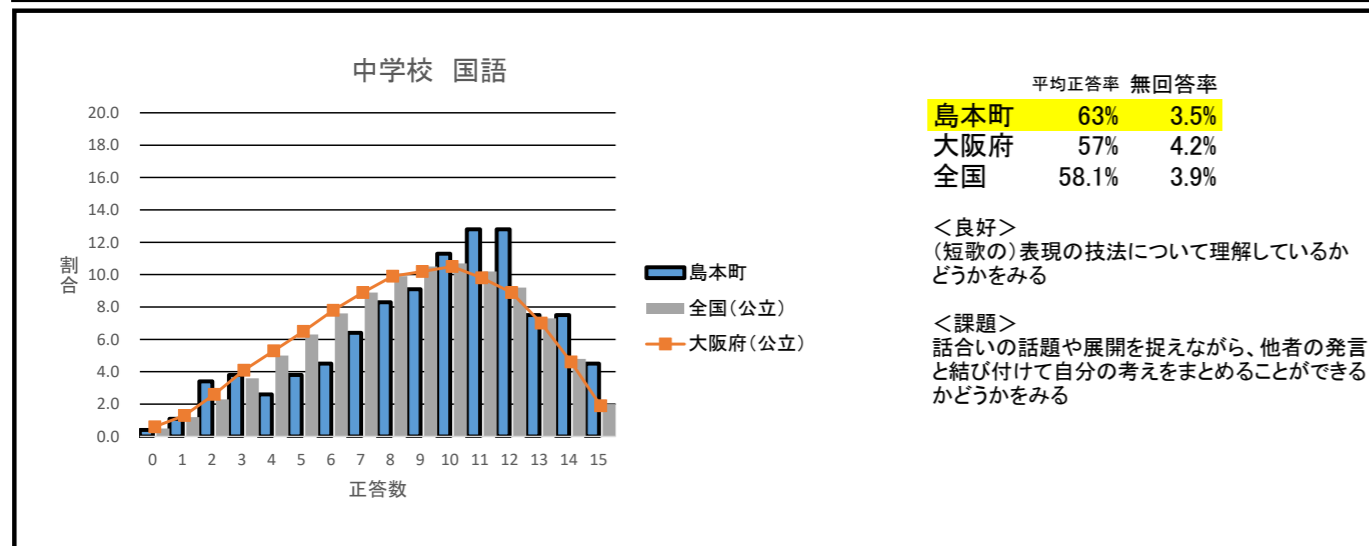


<結果概要>
小学校 国語: 問題形式では、すべての分類・区分で全国及び大阪府平均を上回る結果となったが、思考力・判断力・表現力の観点における、「書くこと」の区分で全国平均との開きが小さくなった。

小学校 算数: 問題形式では、すべての分類・区分で全国及び大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における図形分野の出題において、全国平均との開きが小さくなった。

中学校 国語: 問題形式では、すべての分類・区分で全国及び大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における「我が国の言語分野に関する事項」に関する出題において、全国平均との開きが小さくなった。

中学校 数学: 問題形式では、すべての分類・区分で全国及び大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における関数分野の出題において、全国平均との開きが小さくなった。



<アンケート結果について(次頁)>
令和5年度に作成した「みづまるキッズプラン」の指導書記載のとおり、本年度から「みづまるキッズプラン」の成果指標の一つとして本アンケートを活用し、当該プランで身に付けさせたい力である「自己表現力」「課題探究力」「社会参画力」が身についたかを検証していくこととする。

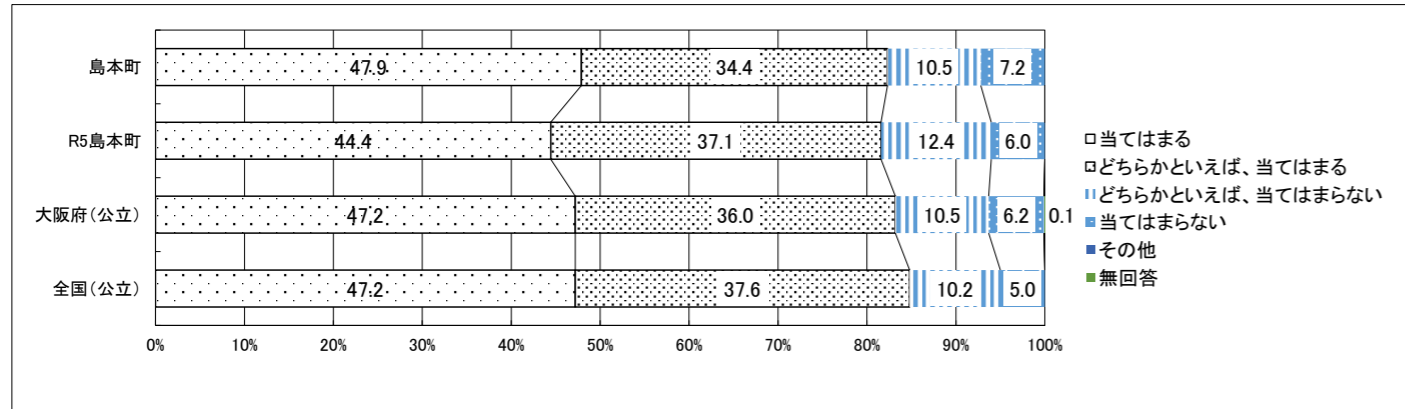
○(25)で問われている地域社会への積極的な参加について、令和5年度の肯定的回答割合を小学校では5.1ポイント、中学校では16.7ポイント上回る結果となった。各学校において、学習したことをどう社会に還元するか、地域社会の課題等に対して、どう解決していくかを考える探究型学習が定着してきたことの表れであると分析できる。次年度以降の数値変動に注目しつつ、不断の「社会参画力」向上を目指す学習活動改善を続ける必要がある。

●(16)の学校に行くのは楽しいと思うか、については全国平均の肯定的回答割合と比較して小学校で2.5ポイント下回り、中学校では2.4ポイント上回った。また、(17)の他者との意見相違を楽しめるか、については全国平均の肯定的回答割合と比較して小学校で0.4ポイント下回り、中学校では2.2ポイント上回った。学校に行くのが楽しい、という思いは、全ての学習活動の根幹に関わる部分である。小学校、中学校共に肯定的回答割合が8割を超えているが、これに慢心することなく、各校での児童生徒主体の取組が必要である。他者との意見相違については、「みづまるキッズプラン」が目指す子ども像である「違いを理解し自他を尊重する子ども」の実現にも深く関わる内容である。各校において対話のルールや意見相違の解決法を学ぶ等、さらに具体的な取組を推進する必要がある。

2. アンケート(抜粋)

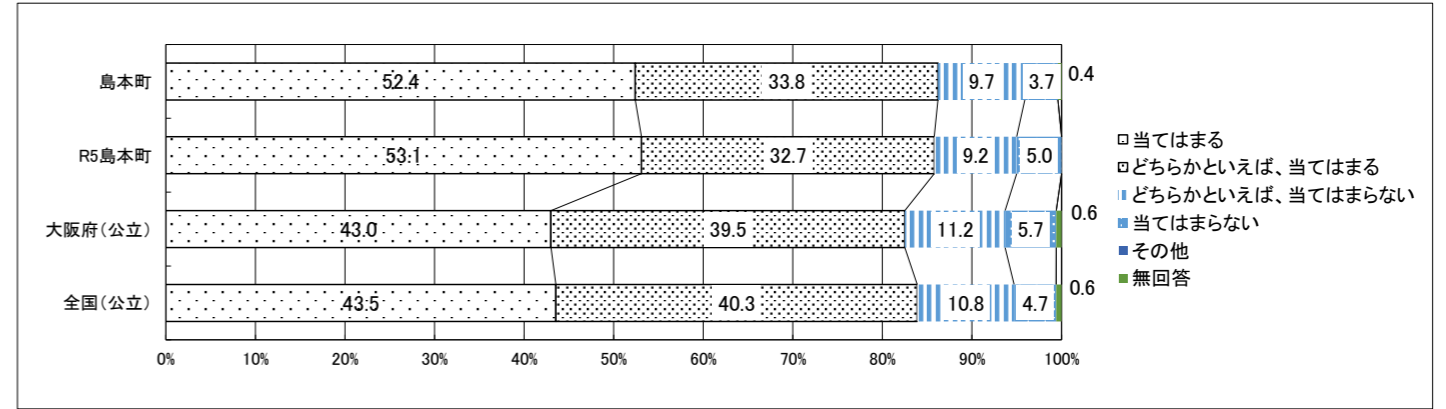
小学校

(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか

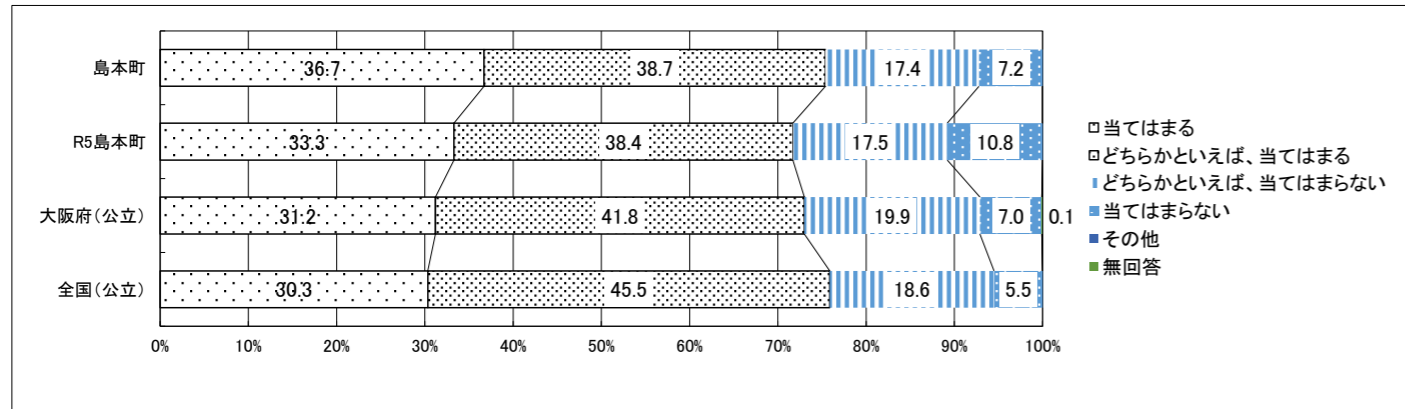


中学校

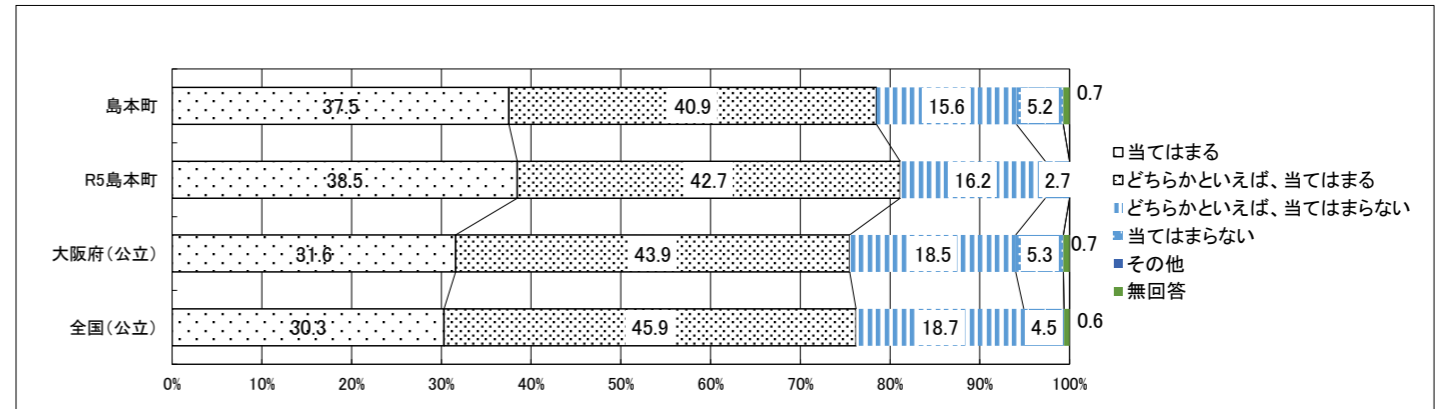
(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか



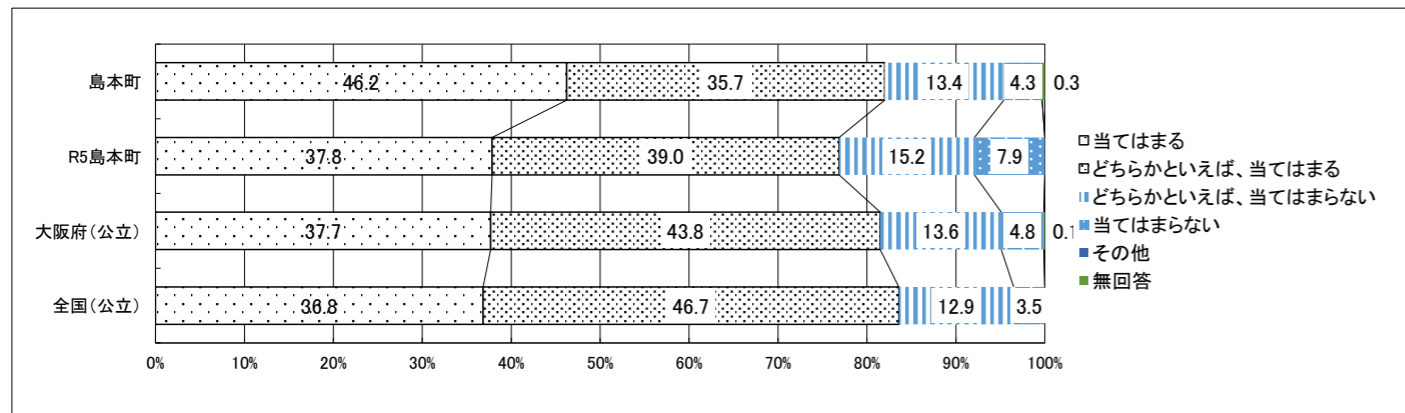
(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

